

バス路線を維持するために

1人年間 284円の負担

歳入		歳出	
一般財源 (市税など) 8,050万円()		バス関係補助金 (総務費 交通政策費) 1億3,440万円()	
		バス停留所上屋等整備補助金 150万円	
		高齢者回数券割引に 対する補助金 1,750万円	
特定財源 5,390万円()		運行経費欠損に 対する補助金 (市委託12路線 生活交通2路線) 1億1,540万円	
県補助金 3,420万円			
市町村負担金 1,970万円			
平成14年3月末人口 28万3,005人()			
市民一人当たり284円([] ÷) 負担			

移動手段が自家用車中心で、バスを利用し

ず。金の、バス利用一回当たりの平均は二百八円です。

今回は、市民の皆さんの足として身近な公共交通機関である、バスについて考えましょう。平成十三年度では、左図のとおり、バス停留所の整備費や、高齢者のバス回数券割引、委託バス路線などの運行経費欠損への補助金を、総額一億三千四百四十万円支出しました。

この支出に対し、県からの補助金と、バス路線が通っている近隣市町村からの負担金が、総額五千三百九十九万円入ってきます。これが、使い道の決められている「特定財源」です。そして、支出額と「特定財源」の差額八千五百万円は、市民の皆さんが納めている市税などの「一般財源」で賄われています。

つまり、バスを利用するしないにかかわらず、市民全員で、バス運行経費の八千五百万円を負担していることになり、市民一人当たり換算すると二百八十四円になります。これに対して、補助対象路線にバス利用者が支払った料金の、バス利用一回当たりの平均は二百八円です。



ない人たちは、この負担を高いと感じるかもしれません。しかし、お年寄りや未成年者など、自動車を運転できない人にとつては、バスは貴重な交通手段です。また、自家用車で通動する人も、雪が降ったときなど、バスの便が良ければ、バス通動を考える人も多いでしょう。

市民一人ひとりが、より生活に密着したバスの必要性を感じ、できる限りバスに乗れば、補助金の支出は減り、これに充てられる「一般財源」も減ります。もちろん、利用者が増えれば、運行本数の増加など、利便性の向上にもつながります。一人当たり二百八十四円の負担は、皆さんの行動で、大きくも小さくもなるのです。市民の皆さん、ぜひバスを利用してください。

… 問い合わせは財政課 890 6542、交通政策課 890 6262へ。

インターネットでも実施 情報化意識など調査

本市では、行政情報化と地域情報化を融合した「総合情報化推進計画」を策定します。

その計画書策定のためアンケートを行いました。より多くの人の意見をいただくため、八月三十一日 までインターネットでもアンケートを実施します。市の情報化やまちづくりなどに関心がある人は、ぜひご協力をお願いします。アドレスは

一緒に考えてみませんか

ITを生かしたまちづくり

本市では、「行政」と「地域」の総合情報化の実現を目指しています。そこで、情報化や情報サービスについて検討するワークショップ(体験型学習会)を実施。ITを生かしたまちづくりに関心のある人の応募をお待ちしています。

日時 9月29日・10月15日・26日、午後1時30分(10月15日は午後6時30分) 会場 市役所11階南会議室など 対象 本市の情報化・まちづくりに興味があり、三回とも参加できる人(二十人(抽選) 申し込み 8月31日 までにハガキまたは電子メールで、住所・氏名・年



ITを生かしたまえばしネット

年齢・職業・性別・電話番号を明記し、市役所情報管理課「総合情報化推進計画ワークショップ係」(890 5880)へ。電子メールのアドレスはjounkan@city.maebashi.gunma.jpへ。